

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園(Kindergarten)から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。
 小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。
 Primary Division(幼稚部および1～5年) = 幼稚部および小学校1～5年
 Secondary Program Division(6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年
 IB Programs Division(6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

2023年度 玉川学園学校評価（自己評価結果）

評価規準	2023年度の課題・重点施策	2023年度自己評価	
		2023年度の課題・重点施策に対する達成状況	2024年度の課題と改善方法（2024年度の課題・重点施策）
<p>目的(01)：重要な使命の共有 Purpose(01)：Sharing an important mission</p> <p>規準(0101)：目的 Standard(0101)：Purpose</p> <p>0101-01 学校の統括組織および学校リーダーは、全人教育、学習指導要領とIBの理念と使命、IDEALSに沿って、学習目的を明確化すること。</p> <p>0101-02 学校の教育的リーダーシップチームは、生徒が能動的で思いやりのある、生涯にわたり学び続ける学習者になることを奨励する教育的アプローチを採用すること。</p> <p>0101-03 学校のコミュニティーは、「12の教育信条」「IBの学習者像」のすべての人物像を体現する国際的な人材を育成すること。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。(0101-01) ● 中長期目標に基づき、K-12 教員が参加する研修、及び、研究会を実施し、教員の全人教育の理解度を深め、指導力の向上を図る。(0201-02) ● 全人教育における、12の教育信条の周知徹底、「玉川っ子」の概念を共有するために、全人教育に関する研修を深めるよう計画する。外国籍教員に対して、全人教育の理解の徹底を図る方策を探る。(0101-03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学園教学部が中心となり、各ディビジョンと連携をはかりながら、全人教育の理念に基づき、K-12 一貫教育を推進するよう努めた。学園部長会、K-12 協議会以外に、部長連絡会を年11回開催し、ディビジョンの部長間で情報を共有し、K-12 教育活動を展開することができた。(0101-01) ● 鹿児島研修、探究学習発表会、K-12 授業研究などの実施を通して、教職員への全人教育の啓蒙、指導力の向上を図ることができた。(0101-01) ● ディビジョンごとにテーマを持ち、全人教育に関する研修を実施した。K-12 全体での研修は実施できなかった。(0101-03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。(0101-01) ● 創立95周年行事にK-12 園児児童生徒・教職員が一体となって取り組むことができるよう、学園教学部としてサポート体制を整える。(0101-01,02) ● 中長期目標に基づき、K-12 教員が参加する研修、及び、研究会を実施する。12の教育信条、及び「玉川っ子」の概念を共有するために、全人教育の理解を深める研修を計画する。(0101-01,02,03)
	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各学年の発達に即し、園児がより主体的・能動的に学びを得られるような遊びの環境設定、活動のねらい、各行事の在り方などについて部内研修等を通して話し合う。(0101-02) ● 全人教育の理念を土台とした教育の実現をめざし、「12の教育信条」「IBの学習者像」と実践している教育活動との関連性について、部内研修等を通して話し合う。(0101-03) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学年ごとに時期とねらいを定め、主体性を伸ばすための「自発的な遊びの時間」の環境設定について研修を実施した。コロナ後の行事運営についても、1年間の流れや各行事のねらいを再設定することができた。(0101-02) ● 12の教育信条にある、「全人教育」「個性尊重」「自学自律」の3つについて、幼稚部における教育目標や教育活動との整合性を再確認することができた。(0101-03) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● より主体的・能動的に学びを得られるような遊びの環境設定、活動のねらい、各行事の在り方などについて部内研修等を継続する。また、コロナ対策のため中止していた「5歳児合宿」の再開実施に向けて計画、準備を進める。(0101-02) ● 12の教育信条にある「自然の尊重」「労作教育」「国際教育」に焦点を定め、幼稚部における教育目標や教育活動との整合性について話し合う機会を設ける。(0101-03)
	<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。(0101-01) ● 中長期目標に基づき、自校教育カリキュラム作成に向けて全人教育理解のための計画を立てる。(0101-02) 	<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念に基づいた教育目標を掲げ、全教員が今年度の重点目標を作成し、教育活動を実践した。全人教育の理念を浸透すべく、教職員研修を実施した。(0101-01) ● 児童一人ひとりが「きれいな心」「よい頭」「つよい体」の玉川っ子の具体的な目標を立て、「望ましい玉川っ子」像を明確にし、児童と教師、保護者が一体となって指導に当たった。(0101-02) 	<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を継続的に展開することを徹底する。(0101-01) ● 中長期目標に基づき、自校教育カリキュラム作成に向けて全人教育理解のための計画を立て、実践する。(0101-02)
	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各教科の教育課程において、全人教育の理念、高校の学習指導要領に準じたものかを再確認し、シラバスで内容を明確化する。(0101-01) ● BYODに対応したカリキュラムを検討し、各教科の実践を共有しデジタル教科書の検討を進める。(0101-01) ● グローバル人材育成に必要な語学力、主体性、協調性など、どの活動にどのようなアプローチをすべきか検討する。(0101-03) 	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各教科の教育課程では、全人教育の理念を再確認するとともに、高校の学習指導要領に準じた内容となっていることを確認し、次年度のシラバスで明確化できるよう確認できた。(0101-01) ● BYODに対応したカリキュラムを検討し、各教科での実践を部分的に共有することで、デジタル教科書の活用をある程度進めることができた。(0101-01) ● グローバル人材育成に必要な能力について検討を行った。(0101-03) 	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● BYODに対応したカリキュラムに関して継続検討をし、EdTechの推進研修から個別最適カリキュラムについて模索する。(0101-01) ● 実施した自校教育振り返りから、柔軟なカリキュラムなどを検討し、それに基づき計画的に自校理解を深め、児童・生徒の帰属意識と志を高め、建学の精神の実現を図る。(0101-01,03)

	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The IB Division Head will bring Divisional concerns to the K-16 Zenjin Committee to elicit advice on more effectively communicating this information to IB shareholders in the near future. <p>教育部長 (IB 担当) は K-16 全人教育研究センター運営会議の場で現状の懸念点を伝え、ディビジョン内での全人教育の基礎や理念、考え方の理解を深めるための助言を受け、得られた情報を効果的にディビジョン内の管理職や教員に共有していく。</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● On the recommendation of the Executive Director of Higher Education, the IB Head met the Head of the ELF Center for advice. He introduced the Head of University Academic Affairs, and the IB Head met her on April 18, 2023, and was advised to speak to the Head of the University Education Department. The IB Head met him on June 15, 2023. He agreed in principle with the need for more information, especially in English for foreign teachers and professors, and offered to do a workshop on Zenjin philosophy sometime in 2024-25. <p>外国籍教員に全人教育の理念を理解してもらう方法を検討する中で、高等教育担当理事からの推薦で、教育部長 (IB 担当) が ELF センター長と面会し、4月に教学部長、6月に教育学部長にも現状を説明した。英語で全人教育の理念・考え方を提供する必要性に同意を得られ、2024年から2025年にかけて全人教育のワークショップを行うことを検討していくこととなった。</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Elicit assistance from the 'Zenjin Education Research Committee' in organizing an English-based 'Zenjin Library' that would be accessible to non-Japanese speakers in all school divisions. (0101-02) <p>全人教育研究センターの協力を得て、全ディビジョンにおいて外国人が利用できる英語版「全人教育ライブラリー」を組織する。(0101-02)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Coordinate with the 'Zenjin Education Research Committee' to produce English-based lectures/videos/questions and answer sessions on Zenjin education to non-Japanese speakers in all school divisions. (0101-03) <p>全人教育研究センター協力のもと、英語による全人教育の講話や動画資料、質疑応答などの機会を設ける。(0101-03)</p>
<p>目的 (01) : 重要な使命の共有 Purpose (01) : Sharing an important mission</p>	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標を部署内の教職員が一体となって実現に向けて取り組む。K-12 として初めて開催する探究学習研究会が、全人教育の理念のもと玉川教育の強みを学内外に発信する場となるよう準備を進める。(0101-01) ● ES の運営が玉川教育における 12 の教育信条に沿った教育活動となるよう、部署内の教職員が活動目的を明確化し事業を展開する。(0101-03) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本センターが主管となり、10月下旬に K-12 探究学習研究会を開催した。学外の教育関係者も対面で参加し、午前は児童・生徒による成果発表会を実施した。午後は教職員の研修の場として基調講演や分科会を実施したことで、一日を通し K-12 で実践している探究活動について学内外に発信することができた。(0101-01) ● 本センター所属教職員による研修会を4月の年度当初に開催し、部署内の事業の内容および目標を明確にした。ES 部門と MMRC 部門の連携強化を図ることで効率的な事業を展開した。(0101-03) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部署内の2つのセンター(ES センター・マルチメディアリソースセンター)が担当するそれぞれの事業によって、K-12 の園児・児童・生徒が個別最適な学びを通じて個性を發揮し、主体的に活動できるよう事業計画にその内容を盛り込む。(0101-02) ● アカデミックサポートセンターが展開する教育学習支援では、自学自律や労作教育等、12 の教育信条に基づいたプログラムを検討し、園児・児童・生徒が主体的に実践できるよう働きかけをする。(0101-03)
	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従い、全人教育の理念のもとに教職員が一体となり、創立 100 周年を見据えた教育活動を展開する。(0101-01) ● 玉川大学・玉川学園 K-16 として運用を開始する組織として、現況の状況把握と情報共有を進め、中長期目標達成に向けた事業を展開する。(0101-01) ● K-16 の安心安全な研修・留学における危機管理体制を整備する。(0101-02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標を K-16 国際教育センター教職員が一体となり、実現に向けた取り組みを進める事ができた。(0101-01) ● 玉川大学・玉川学園の K-16 共通組織として大学と K-12 相互の情報を共有し、共通課題の検討と対応を進めながら、再開した交換研修・留学における危機管理体制として、K-16 共通の危機管理等の整備を進める事ができた。(0101-01,02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標数値に向け、K-16 国際教育センター教職員が一体となり、実現に向けた取り組みの検討を継続する。(0101-01) ● 国際教育センターとして、K-16 研修・留学の派遣受入に関する企画立案計画の確認を随時行う。(0101-01) ● K-12 各ディビジョンの国際担当と各研修・留学に関して計画準備等の事前確認とサポートをし、安心安全な研修・留学を行う。(0101-02)
	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 のカリキュラムが指導要領に準じているかの確認を K-12 教科会で再確認する。(0101-01) ● 生涯学び続けることのできる能力を身に付けるため、プランナーなどで計画的に学習できるよう指導する。(0101-02) ● 国際教育に関して、各教科できることを再確認し、カリキュラムを検討する。(0101-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各教科 K-12 のカリキュラムが指導要領に準じているかの確認を行った。(0101-01) ● プランナーなど活用を推進するよう指導を行ったが、十分とはいえなかった。(0101-02) ● 国際教育に関しての確認においては、すべての教科で検討するところまでは至らなかった。(0101-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2024 年度は高等学校新学習指導要領の完成年になるので、K-12 カリキュラムが指導要領に準じているか確認する。(0101-01) ● 個別最適カリキュラムなどの検討ができるよう各教科に促す。必要に応じて、どんな研修が必要かを各教科から聞き取りし検討する。(0101-01)
	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念のもとに、園児児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を推進する場面を増やす企画を立案する。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、園児・児童・生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校づくりを家庭と共に行い、事案が起きた場合の対処対応の研修を行う。(0101-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念のもとに、園児児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を行事等で進めることができた。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、「安全教育ガイダンス」「いじめ対策防止委員会」の開催等で、園児・児童・生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校づくりを家庭と共に行うことができた。(0101-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念のもとに、園児児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を推進する場面を増やす企画を立案する。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、園児・児童・生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校づくりを家庭と共に行い、事案が起きた場合の対処対応の研修を行う。(0101-01)

評価規準	2023 年度の課題・重点施策	2023 年度自己評価	
		2023 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2024 年度の課題と改善方法（2024 年度の課題・重点施策）
<p>環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources</p> <p>規準(0201)：リーダーシップおよび統括体制 Standard(0201)：Leadership and governance</p> <p>0201-01 学校は、プログラムの実践と現在行われている教育の改善をサポートするため、学習指導要領およびすべての IB 規則、規定、およびガイドラインを定期的に見直し、遵守すること。</p> <p>0201-02 学校の教育的リーダーシップチームには、IB プログラムの実践を成功に導く権限を与えられた IB の訓練を受けたプログラムコーディネーターを含めること。【IB ディビジョンのみ】</p> <p>0201-03 学校は、幅広くバランスがとれ、関連性の高いカリキュラムを提供し、地域社会の変化するニーズに対応する学習と指導の時間を編成すること。</p> <p>0201-04 学校は、K-12 教育課程、IB プログラムの運営と持続可能性を向上させるためのシステムとプロセスを運用し、見直しを行うこと。</p> <p>0201-05 学校は、K-12 教育課程と IB プログラムを維持し、さらに発展させるため資金確保とリソースの分配を行うこと。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教務委員会と連携し、2021 年新ディビジョン体制スタートに当たり設定した K-12 教育課程の更新を実施する。(0201-01) ●K-12 収支均衡を目指して、幼稚部、及び、Secondary Program Division の具体的な改革プランを検討し、収支改善に向けての方向を定める。K-12 全体のバランスをとりながら、施設設備等の改修、改築、更新を計画的に進める。(0201-01) ●状況に応じて適宜オンラインを活用出来る環境作りを、法人部門と連携しながら継続してサポートしていく。(0202-01) ●各個人の教師力向上を目指し、オンライン、及び、対面の研修に積極的に参加できるようサポートをする。また、保健センター 健康院、カウンセリング室と連携を図り、教員が安心して働ける環境作りに取り組む。(2003-02) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育課程の一部見直しは行ったが、全体の見直しが出来ていない。次年度、新学習指導要領に基づいた高校のカリキュラム完全実施を踏まえ、K-12 教育課程の更新を計画する。(0201-01) ●ES を中心とし、新プログラムなどの実施を行った。K-12 収支安定に向けては、K-12 全体でバランスをとりながら、改善に向けて継続して取り組んでいく。(0201-04,05) ●オンライン授業に関しては、感染症の状況に応じて、適宜取り入れ、対面と併用しながら授業展開を行うことができた。(0202-01) ●K-12 研修計画に基づき、計画的に研修を実施することができた。オンラインによる研修 (NITS 教職員研修機構動画研修) も実施した。教員の健康面のサポートに関しては、継続して取り組んでいく。(0203-01,02,03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●K-12 教育課程の更新計画にのっとり教育課程の更新を進める。新教育課程を土台として、各ディビジョンのカリキュラムを整備していく。(0201-01) ●K-12 収支均衡を目指して、各ディビジョンの具体的な改革プランを検討し、収支改善をめざして教育プログラムを展開する。K-12 全体のバランスをとりながら、予算配分、施設設備等の改修等の計画を立てる。(0201-04,05) ●オンライン授業の環境整備、ICT 教育機器の導入、教務校務業務の ICT サポートなど、K-12 教育活動が円滑に進められるよう、法人部門と連携し進める。(0202-01,0203-01,02,03)
	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新の継続。(0201-01) ●2023 年度中に 8 期の英語カリキュラムの完成を目指すとともに、学びのポートフォリオ作成に着手する。(0201-03) ●2022 年度 7 月に実施できなかった教員研修について内容を再検討し、実施に向けて計画を進める。(0202-05,0203-03) 	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●週ごとに活動内容や環境設定を計画し振り返りを行う「週日案」をもとに、年間を通じ個々の成長を促進するための環境づくりを継続した。また、各期 (1 年＝8 期) の終わりにミーティングの場を設け、各学年・クラスの状況について情報共有を行った。(0201-01) ●年度内に年長の英語カリキュラムを作成し、幼稚部 3 ヶ年の英語カリキュラムを完成することができた。また、自己評価のためのポートフォリオ作成に着手し、授業や教室環境に取り入れることができた。教員研修については、1 学期末に TAP、ポートフォリオに関する研修を実施した。(0202-05,0203-03) 	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新を継続する。また、K-12 学内研修会における幼稚部授業公開に向けて、配布用資料等の作成を行う。(0201-01) ●英語カリキュラム、シラバス、ポートフォリオ等の作成・更新を継続する。また、教員研修については、1 学期末に全体研修を計画するとともに教員各自の自発的な研修参加を促す。(0202-05,0203-03)
	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハイブリッドによる授業を展開しつつ、オンラインで授業に参加している児童の成績評価の付け方について各教科一覧にし、明確化したものをブラッシュアップする。(0201-01) ●教務主任 (K-5BLES 担当) を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の充実を図り、Bilingual プログラムの推進を行う。(0201-02) ●Secondary Program Division および IB Programs Division との英語科研修会を計画的に実施し充実させていく。(0201-04) ●SH の個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。(0202-01) ●BSH の時間の運用、活用に関しては、これまでの経験を生かし、より一層の充実を図る。(0202-02) ●教科部会を中心に授業研究を推進し、若手教員を育てる上での Induction Program を作成し実践する。(0203-01) ●JP クラスの授業研究を実施し、授業力向上を今後も継続的に図る。(0203-01) ●各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りを行う。今後も継続的に宿泊行事等にも外国籍教員の積極的な参加を促し、チームで指導に当たる体制を作る。(0203-03) 	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度は、対面授業を基本として展開したが、感染症の拡大防止のためにオンライン授業の切り替えなど迅速に対応し、評価の付け方に関しては教務主任を中心とし教科毎で明確化を図ることができた。(0201-01) ●教務主任 (K-5BLES 担当) を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの見直しと学習内容の充実を図り、児童の発達に即した内容にブラッシュアップすることができた。(0201-02) ●Secondary Program Division および IB Programs Division との英語科研修会に関してはほとんど実施できず、次年度の課題として取り組んでいく。(0201-04) ●元 Primary の教諭が指導に当たったことで、SH の個別教材が一層充実し、児童の取り組みも充実した。(0202-01) ●BSH の時間の運用、活用に関しては、再度見直す段階に来ている。日課の見直しを含め、その時間の有効的な利用を探っていく。(0202-02) ●研修担当を中心に、相互の授業を見合う機会を積極的に取り入れ、授業力向上を図ることができた。(日本人教員はほぼ全教員が授業を公開した。30 回実施。) また、外国籍教員に関しては、教務主任 (K-5BLES 担当) による 19 人全員の授業点検を実施した。(0203-01) ●各会議資料及び業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持った指導体制は構築され、充実している。宿泊行事 (3・4 年林間学校、5 年スキー学校) に関しても、日本人と外国籍教員の協力のもと安全かつ円滑に実施することができた。(0203-03) 	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●感染症の拡大防止のためにオンライン授業への切り替えをスムーズに実践し、教職員が感染した場合などを想定し、迅速に対応できる体制を構築する。(0201-01) ●教務主任 (K-5BLES 担当) を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の一層の充実を図り、Bilingual プログラムの推進を継続化する。(0201-02) ●Secondary Division および IB Division との英語科研修会を計画的に実施し、相互に学習内容を把握し、連携を図りながら英語教育を充実させていく。(0201-04) ●SH の利用率の向上を目指し、個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。(0202-01) ●日課の検討を含め、BSH の時間の運用、活用を再度見直し、教育効果を上げる有効的な利用を探っていく。(0202-02) ●次年度は新任教員が多くなることから、教務主任を中心に新任教員研修の充実を図っていく。(0203-01) ●日本人、外国籍教員ともに授業研究を実施し、授業力向上を今後も継続的に図っていく。(0203-01) ●各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りをする。今後も継続的に宿泊行事、入試業務等にも BLES 専任教諭を中心に外国籍教員を積極的に参加させ、チームで指導に当たる体制を作る。(0203-03)
<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●玉川学園の教育課程が、高等学校新学習指導要領に基づいたものになっているかを再確認する。(0201-01) ●Primary Division のプログラミング教育と高校課程の情報科をつなぐ 6 年生から 9 年生までのカリキュラムを検討する。(0201-01) ●引き継ぎ、ICT 活用授業について各教科検討し、全体会などで共有する。(0203-02,03) ●SH の新しい講座の実施に向けて、引き続き検討する。(0202-02) 	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●玉川学園の教育課程において、高等学校新学習指導要領に基づいたものになっていることを再確認できた。(0201-01) ●Primary Division のプログラミング教育と高校課程の情報科をつなぐ 6 年生から 9 年生までのカリキュラムについて検討することができた。(0201-01) ●ICT 活用授業について各教科検討し、共有することができた。(0203-02,03) ●SH の新しい講座の実施に向けての検討は十分行うことはできなかった。(0202-02) 	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2024 年度は高等学校新学習指導要領の完成年度であるので、教育課程の再確認を行う。(0201-01) ●Primary Division との英語科研修会を実施し充実させていく。(0201-04) ●引き継ぎ、ICT 活用授業について各教科検討を続ける。(0203-02,03) 	

<p>規準(0202)：生徒のサポート Standard(0202)：Student support</p> <p>0202-01 学校は、プログラムの実施に関わる人材、自然資源、設備、およびバーチャル環境におけるリソースを提供すること。</p> <p>0202-02 学校は、生徒への適切な学習サポートの必要性を確認し提供すること。</p> <p>0202-03 学校は、生徒と教師の社会的および心身の健全性、感情的、肉体的な幸福を促進すること。</p> <p>0202-04 学校は、生徒がプログラムで成功し、次の段階についての計画を手助けするキャリアガイダンスとサポートを提供すること。</p> <p>0202-05 学校は、プログラムの実施を強化する知恵と専門知識を得るために、より広いコミュニティーとの関係を構築すること。【K-16連携等】</p> <p>規準(0203)：教師のサポート Standard(0203)：Teacher support</p> <p>0203-01 学校は、教師が最新のリソースを使用し、プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること。</p> <p>0203-02 学校は、学校リーダーシップメンバーと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること。</p> <p>0203-03 学校は、プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること。</p>	<p>【教育部長（IB担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● This system will be continued into 2023 with some minor changes to increase its effectiveness further. (0201-04,05) <p>予算策定制度は 2023 年も継続し、更に効果を高めるために若干のマイナーチェンジを実情に合わせて行う。(0201-04,05)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Morning Support and Study Hall will be continued into 2023 with some minor changes to increase its effectiveness further. (0202-02) <p>Morning Support や Study Hall などの運用方法は、2023 年度も継続し、更に効果を高めるために若干のマイナーチェンジを実情に合わせて行う。(0202-02)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Continue to monitor this system as the student population grows; at some point in the future we may have to add more multi-grade level homeroom leaders. (0202-03) <p>2 名体制の複数学年の学年主任のシステムを継続していきながら、今後の児童・生徒数の増加にあわせ、複数学年の学年主任を追加する必要があるかを検討する。(0202-03)</p>	<p>【教育部長（IB担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The Division successfully used the existing budget system throughout the 2023-24 school year. Although many unexpected expenses arose, especially in regard to school-sponsored student trips abroad, the Division continued to plan and spend effectively. <p>今年度を通して、ディビジョン全体で既存の予算システムをうまく活用することができた。特に児童・生徒の海外研修などにおいて、予期せぬ出費が多く発生したが、その中においても効果的な計画と支出を継続することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The Division successfully planned for and timetabled Morning Support and after-class Study Hall and Academic Support. The appointment of a new EAL Coordinator greatly contributed to the efficient delivery of these initiatives. Talks took place toward the end of the year to revamp both programs beginning April 2024 for more efficiency. <p>Morning Support、授業終了後の Study Hall、Academic Support は計画通り実施できた。新しく EAL コーディネーターを設置したことで、効率的な運用に大きく貢献した。年末には、次年度から両プログラムをより効果的に行なうための話し合いが行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● In May of 2023 the IB Head formally requested to the Dean of Academic Affairs that a third multi-grade level homeroom leader be allotted in the 2024-25 school year, in order to more evenly distribute the workload of the current g6-9 Leader. This request was denied, as it would have resulted in hiring a new teacher. <p>2023 年 5 月、教育部長（IB 担当）は学年主任（IB6-9 担当）の業務量が多いことから、次年度 3 人目の学年主任の追加について学園教学部と検討したが、今後の教員採用への影響も鑑み、次年度の追加は見送ることとなった。</p>	<p>【教育部長（IB 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Promote further curricular exchanges, initiatives and activities with IB and Round Square partner schools to facilitate more frequent communication and understanding between students of different languages and cultural backgrounds. (0201-03,0202-01) <p>IB やラウンドスクエアの提携校との一層の教科交流やアクティビティなどの交流機会を推進し、異なる言語的、文化的背景を持つ児童・生徒同士が理解し合えるようにコミュニケーションをとる機会をより頻繁に行う。(0201-03,0202-01)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Reach out to other Divisions' leadership and staff to increase the number and scope of IB DP CAS and MYP Service opportunities. Strengthen ties with Tamagawa University through a joint IB Action Research initiative. (0203-01) <p>IB の DP における CAS と MYP における Service as Action の活動の幅を広げるために、学内外でできる情報収集を他ディビジョンの管理職や先生方に伺いながら、集めたリソースをディビジョン内で共有する。大学院教育学研究科との共同 IB アクションリサーチを通じた連携強化を行なう。(0203-01)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Integrate RAZ-Kids across the Division as a means to track and enhance students' reading progress. Their results will be used to advise teachers on differentiation Approaches to Teaching strategies across the curriculum. (0201-04,0203-01,03) <p>生徒のリーディングの上達を追跡し、向上させる手段としてディビジョン全体に RAZ-Kids を取り入れる。RAZ-Kids にて収集されるデータはカリキュラム全体にわたる指導の差別化の方法について教員にアドバイスを与えるために使用する。(0201-04,0203-01,03)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Support students' social and emotional health through the creation of a curriculum programme to run through IB Core classes and Homeroom periods. We will also make stronger links with different stakeholders within the school such as the nurse and counsellors with the aim of adding them to the programme. (0202-03) <p>IB Core の授業とホームルームの時間を通して実施するカリキュラムを作成し、生徒の社会的・情緒的な健康のサポートを組み込む。また、養護教諭やカウンセラーなど学内のさまざまな関係者との連携を強化することを目指す。(0202-03)</p>
	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部署内の各課が、K-12 の附置機関としての役割を十分に担うため、教育学習支援体制のあり方について再確認し教育の改善につなげる。(0201-01) ● 検定運営では検定級の取得が進路に直結する生徒に対して、継続学習センターや進路相談室、ES との連携のもと、各種検定の受験機会を増やすことや検定対策講座の開講等、進路実現のサポートを提供する。(0202-04) ● K-12 探究学習研究会を開催する際は、教員の探究学習に関する指導力向上を促進する研修機会となるよう、プログラム内容を構築する。(0203-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4 月に実施した本センター所属教職員による研修会において、各事業における教育学習支援体制のあり方と各ディビジョンとの連携方法について共通認識を持つことができた。(0201-01) ● 本センター主催による検定以外で、今年度も引き続き継続学習センターと連携を図り、数学検定や TOEIC IP テストの受験機会を確保した。また、英検の受験対策として ES 講座を準 2 級および 2 級対象で開講した。(0202-04) ● 研究会では 200 名以上の児童・生徒による研究発表の公開以外に、探究学習に関する基調講演、学外教育関係者も参加したワークショップ形式の 5 つの分科会等、教員研修に繋がるプログラムを設定することができた。(0203-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次年度に 6 年生以上を対象とした BYOD の完成年度を迎える。K-12 プロジェクト委員会において振り返り、ICT の授業利活用の推進を目指した児童・生徒・教員へのサポート体制を検討する。また、1~5 年生への ICT 導入については、ICT 活用計画の基本方針に沿って経塚校舎内の Wi-Fi 環境について委員会等で検討する (0202-02,0203-03) ● 園児対象の SH 朝預かりの運用開始に際し、各家庭の利用状況を把握し、玉川教育に則した事業であることを確認しながら展開する。(0201-01)

	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際交流プログラム再開に向けて、今後もコロナ禍等の影響から派遣受入ともに実施困難の状況を想定し、現状の交流校との確認を進め、ラウンドスクエア加盟校を中心とした新規交流校とのプログラム開発を行う。(0203-02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規交流校（RS校）の開発を進める事ができたことから、今後の交流校として児童・生徒の選択する交流校の幅を広げる事ができた。(0203-02) ●再開したK-12国際交流プログラム派遣受入の計画と準備を再確認し、学齢に応じた交流プログラムの確認と構築を進める事ができた。(0203-02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●K-16海外交流校の派遣受入の交流プログラムにおいて、既存プログラムと新規プログラムを安全安心に運用する企画立案計画の情報交換と共有を随時行う。(0203-02) ●K-12交流プログラム受入に、安定したホストファミリーおよび学内ホストの確保に向けた検討を継続する。(0203-02) ●国際教育センターとして学内宿泊施設（梁山塾・桔梗塾）の住居環境の改善と、中長期に向けた宿泊施設に関する検討を関係部署と進める。(0203-02)
	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教務主任会において補習のあり方について検討する。(0202-02) ●教員の研修について検討し、実施する。(0203-01) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教務主任会において補習のあり方について検討ができた。(0202-02) ●教員の研修について、個人で参加した研修内容は共有できたものの、全体で行う研修については十分な検討ができなかった。(0203-01) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各教科に必要な研修など、東京私立中学高等学校協会の研修や私学協会の研修や独立行政法人教職員支援機構の研修など積極的に推進する。(0203-01)
	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●CHaT Netを有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築し、充実を図ることを継続していく。(0202-05,0203-03) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●CHaT Netを有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークが構築され、適切に運用されている。(0202-05,0203-03) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●CHaT Netを有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築できたが、今後も課題、改善点などを探り、一層の充実を図る。(0202-05,0203-03)
	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと児童・生徒、教員、家庭との情報を共有しながら、安心な体制と環境の提供を継続する。(0202-03) ●教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する。(0203-03) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと協力しながら、安心な体制と環境の提供を継続する学校生活を維持できた。(0202-03) ●教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続できた。(0203-03) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと児童・生徒、教員、家庭との情報を共有しながら、安心な体制と環境の提供を継続する。(0202-03) ●教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する。(0203-03)
<p>環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources</p>	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人材確保においては、引き続き、収支改善に向けた人件費の適正化が課題である。人件費枠の策定の他、各ディビジョンの教員の年齢構成や職種構成も念頭に、関係部署と検討したい。(0201-05) ●引き続き、教職員の柔軟な働き方について検証し、健全な職場環境の整備に取り組む。(0202-03,0203-03) ●従来、対面を基本としてきた研修と比べオンライン研修の出席率が高いため、それぞれの研修のメリット・デメリットを検証し、今後の研修計画に生かす。また、新たに階層別研修「スキルアップ研修」を計画している。(0203-03) 	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教職員採用の拠りどころとなる人件費比率が、目標値 50%～55%に対し、2023年度は59%を超える見込となっている。年々厳しさを増す中で、人件費の上昇を抑えるために採用数や職種を絞り人材を確保している。 ●職制上の長が許可する在宅勤務日数の上限を、週 1 日から 1 か月につき 5 日と改正した。 ●対面での階層別研修を再開したところ、「他部署の方とコミュニケーションを図る場としてもとても有効だった」「日常の業務の改善と併せて組織のあり方についても考える機会となった」と受講者からは好感触を得た。また、K-12 中堅教員の資質向上研修への協力から今後の協働への良いきっかけができた。 	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人材確保においては、引き続き、収支改善に向けた人件費の適正化が課題である。人件費や採用数の目標数値などを具体的に学園教学部に提示するなど、中長期の教育活動も踏まえて検討したい。(0201-05,0202-01) ●引き続き、教職員の柔軟な働き方について検証する。特に、健康障害の防止を重点に健全な職場環境の整備に取り組む。(0202-03,0203-03) ●階層ごとに求められる役割・立場を理解するベーシック研修や、全人教育研修、教職員の ICT リテラシー向上に関する研修、ハラスメントやメンタルヘルスなどのテーマ別研修を実施したい。(0203-02)
	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●収容定員が未充足である状況に加え、社会情勢に伴う光熱水費等経費の増加が予測されるため、生徒数の増加等引き続き学校種別（ディビジョン）毎の収支改善に向けた取り組みが課題である。(0201-05) ●令和 4 年度決算に係る収支分析の結果について学園部長会へ報告する他、収支改善に向けた教職員構成について関係部署との調整を行う。(0201-05) 	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●K-12 の令和 4 年度入学定員充足率、収容定員充足率は、いずれも未充足の状況である。全体（平均）としては改善傾向が見られるが、学校種によっては増減の繰り返しや下降気味となっている。収支状況については、インフラ整備の影響があるものの、依然厳しい状況が続いており、特に人件費の割合が高くなっている。これらの分析結果については学園部長会で報告し、生徒数の確保や教員数を段階的に標準教員数に近づけること等の、収支改善に向けた取り組みが課題であることを共有した。 ●教職員構成についての関係部署との調整に関しては、今年度も十分な調整ができなかった。 	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●収容定員未充足状況の中、近年社会問題となっている少子化に、コロナ禍以降の著しい出生率の低下が近い将来大きな影響及ぼす可能性が高い。また、物価上昇も続いていることから、定員充足と合わせ収支改善に向けた取り組みが課題である。(0201-05) ●令和 5 年度決算に係る収支分析結果を学園部長会へ報告する他、収支改善に向けた教職員構成について関係部署との調整を行う。(0201-05)
	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各自治体ともアフターコロナでの連携活動を模索し始めており、締結している 7 つの自治体の情報収集を積極的に行い、児童・生徒が地域社会において学習できる機会を提供する。(0201-03) ●Campus Master Planに基づき、自然資源を有効活用した施設・設備の提供を図る。(0202-01) ●引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修中長期計画の立案を行う。(Campus Master Plan) (0202-01) ●SDGs や Society5.0 を視野に入れた Campus Master Plan の立案。(0202-01) 	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に変更になったことで、南さつま市との包括連携協定締結 10 周年記念事業を 1 年遅れで実施した。K-12 ハンドベルクワイアの生徒が記念式典において演奏を行い、翌日には久志地区において住民との交流を行った。(0201-03) ●Tamagawa Wood Seasoning Station (TWSS) の木材低温乾燥装置を利用して乾燥させた木材を教材として活用した。(0202-01) ●施設中長期計画（新築・改修・解体）の実施予算を提出した。(0202-01) ●2024 年 2 月着工の「Sports Center SANITAS」、2024 年 3 月着工の「Student COMMONS」、2025 年着工の「Sports Center SANITAS Annex」は SDGs 及び感染症対策を配慮した設計としている。 	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●包括連携を結んでいる自治体が、2023 年 11 月に新たに 1 つ加わり 8 つの自治体となった。これら 8 つの自治体との関係性を深め、児童・生徒が地域社会において学習できる機会を提供する。(0201-03) ●Campus Master Planに基づき、自然資源を有効活用した施設設備の提供を図る。(0202-01) ●引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修の中長期計画立案を行う。(0202-01) ●SDGs や Society5.0 に加えサーキュラーエコノミーを視野に入れた Campus Master Plan の立案。(0202-01)

評価規準	2023年度の課題・重点施策	2023年度自己評価	
		2023年度の課題・重点施策に対する達成状況	2024年度の課題と改善方法（2024年度の課題・重点施策）
<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p> <p>規準(0301) : 方針の実践を通じた文化 Standard(0301) : Culture through policy implementation</p> <p>0301-01 学校は、可能な限り多様な生徒が教育にアクセスできるようにすること。</p> <p>0301-02 学校は、すべての生徒が最大の可能性を發揮することをサポートする文化を創造するために、多様性を受け入れるインクルーシブな方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-03 学校は、学問の清廉性を保つために必要な学問的誠実性についての方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-04 学校は、複数の言語でさまざまな方法のコミュニケーションを行い、多様な文化の理解を育成するのに役立つ言語方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-05 学校は、生涯学習と継続的な成長を目指す学校文化の創造につながる評価方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-06 学校は、教育理念およびIBが定めた方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行い、それらが一貫性をもち、全人教育およびIBの理念を反映したものかを確認すること。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外在住者のオンライン入試、及び、オンラインによるガイダンス実施等を積極的に取り入れ、より玉川学園を受験しやすい環境作りを行う。また国内入試のあり方も見直し、より多くの受験生を確保できる方策を探る。(0301-01) ● K-12 全体でバイリンガルの環境作りを継続して行う。外国籍教員に対しては、より全人教育の理解を深めてもらうために、研修を実施する。(0301-04) ● 教務委員会を中心とし、K-12 全体の評価方針を継続検討する。IBの評価方法を参考にしながら、玉川学園の園児・児童・生徒のよりよい成長に繋がる評価方法を探る。(0301-05) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外在住者に対するオンライン入試、及び、オンラインガイダンスの実施が定着してきた。また状況に応じて、対面とオンラインの学校説明会を併用しながら、より多くの受験生に本学を理解して頂くよう努めた。(0301-01) ● IB Programs Division において、教育学部長による全人教育研修を実施した。今後もより積極的に外国籍教員に対する研修を実施していく。(0301-04) ● 評価に関する検討は、今年度は継続検討中である。園児・児童・生徒のよりよい成長に繋がる評価のあり方も今後も継続し考えていく。(0301-05) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン入試、及び、オンラインガイダンスを積極的に取り入れ、より玉川学園を受験しやすい環境作りを行う。また国内入試のあり方も見直し、より多くの受験生を確保できる方策を探る。(0301-01) ● K-12 全体でバイリンガルの環境作りを継続して行う。日本語サポートプログラムの実施をめざして、必要なサポート体制を整える。(0301-04) ● 園児・児童・生徒の満足度 UP、及び、志願者増を目指し、玉川の強みを生かした新たなプログラムの開発を各ディビジョンと連携して行う。(0301-01)
	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入試広報および説明、学校案内等については、今後もオンラインと対面のハイブリッドで継続する。(0301-01) ● アカデミックサポートセンターと連携し、家庭を支えるサポートシステム(朝の預かり/ランチサポート)を新たに構築する。(0301-01) ● 母語(日本語)をベースとしたバイリンガル環境の設定やカリキュラムの更新に加え、自国および他国の文化を学ぶ機会を設定する。(0301-04) 	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第1回学校説明会(5月)、入試相談会(5~6月)、第2回学校説明会(9月)をオンラインで実施。プレキンダー体験教室(5~6月)、学校見学会(5~6月、9月)を対面で実施した。また、海外帰国者のローリング入試をオンラインで実施し、年度内に4名入園している。(0301-01) ● アカデミックサポートセンターと連携し、SH「朝預かり」実施、ランチサポート開始のための準備を整えることができた。(0301-01) ● 海外交流校(台湾 稻江高校)の来園に際しては、生徒を受け入れ幼稚部園児との交流活動を行なった。(0301-04) 	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入試広報および説明会、学校見学会については、今後もオンラインと対面のハイブリッドで継続する。海外帰国者等の受け入れについては、ローリング入試(オンライン対応含む)を軸として継続していく。*2024年度より9月転編入試験廃止(0301-01) ● 学園ホームページを見直し、幼稚部サイトの更新を行う。(写真、Q&Aなど)(0301-01) ● 海外校との交流活動を可能な範囲で実施する。また、日本ならではの年中行事に関して、年間の活動内容を整理する。(0301-04)
	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対面式に限定せず、オンラインによる志願者対象の個別入試相談を実施し、日本国内および海外在留者との面談の機会を増やし、志願者増に繋げる。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプの再開に伴い、それ以外の宿泊を伴う行事(スキーキャンプ、久志農場)を検討する。(0301-01) ● 5年生におけるオーストラリア海外交流プログラムを実現させ、低学年における国際理解教育を推進する。(0301-04) ● 1~5年生の ES プログラムを行う中で、SHの見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05) 	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンラインによる学校説明会、個別入試相談会に加えて、実際に来校いただく学校見学会、校舎見学会を実施し、志願者に広く深く学校を理解していただく機会を十分に設定することができた。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプの充実を図ることができたと共に、鹿児島久志農場でのキャンプ実施に向けて下見を行い、具体的な企画、立案の段階に入ることができた。(0301-01) ● 5年生におけるオーストラリア海外交流プログラムの2024年度実施に向けて下見を行い、相手校と綿密な打ち合わせができた。(0301-04) ● 1~5年生の ES プログラムを行う中で、SHの見直しや学習サポートの強化(教材の準備等を含め)を図ることができ、1年生の利用率が8割を越えた。(0301-05) 	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンラインによる学校説明会を通じ広く案内すると同時に、実際に来校いただく学校見学会、校舎見学会を充実させ、志願者増に繋げる。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプの充実とともに、鹿児島久志農場でのキャンプ実施に向けて新たな企画を立案し実現を目指す。(0301-01) ● 5年生におけるオーストラリア海外交流プログラムをスタートする年とし、新たな国際交流の場を広げていく。(0301-04) ● 1~5年生の ES プログラムを行う中で、SHの見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05)
	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● BYOD に対応したカリキュラムの検討を続ける。(0301-01) ● オンラインでの国際交流について検討し、カリキュラムを構築する。(0301-04) ● 各教科、特別活動、道徳などで国際教育を行っている活動を調査し、学齢に応じたカリキュラムを模索する。(0301-04) ● 各教科、主体的な学習姿勢を育成するカリキュラムについての検討を引き続き行い、さらに評価について検討する。(0301-05) ● 中学高校の入学増加のため、各塾や各中学校訪問、オンラインによる学校説明など HP を含めた入試広報体制の充実を図る。(0301-06) 	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● BYOD に対応したカリキュラムの検討を行った。(0301-01) ● オンラインでの国際交流について検討を行った。(0301-04) ● 各教科、特別活動、道徳などで国際教育を行っている活動を確認した。(0301-04) ● 各教科、主体的な学習姿勢を育成するカリキュラムについての検討ができた。(0301-05) ● 中学高校の入学増加のため、各塾や各中学校訪問、オンラインによる学校説明などの広報活動を積極的に行った。(0301-06) 	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き BYOD に対応したカリキュラムの検討を続ける。(0301-01) ● 時期や内容によって、オンラインによる学校説明会を実施し、志願者増に繋げる。(0301-01) ● 清廉性を保つために、各教科評価方法の再確認を行う。(0301-03) ● 現在行っている研修の内容を再確認し、更に、受け入れや研修発表会などによる国際理解教育を推進する。(0301-04)

<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● These proposals will be formalized and turned in to the Academic Affairs section in late-Feb. 2023 for possible implementation from April 2023 on all rolling and regular entrance examinations. The aforementioned team will continue to analyze data from these exams and recommend possible changes every two years.(0301-01) <p>入試の方法の変更は、2023年2月下旬に会議体に諮り、2023年4月からすべての入学試験で実施する予定である。その際に、管理職や教科主任を初めとするチームは、引き続き、これらの試験のデータを分析し、実情に合わせ、2年ごとに変更の可能性を検討していく。(0301-01)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Division Entrance Tests (both rolling and annual) have been reduced to three subjects: Japanese, English and Mathematics, from the previous four; Individuals and Societies and Science exams were done away with in an attempt to simplify the process and make it more attractive to potential new students. Interviews, however remain as the majority of the Leadership Team found them useful in supplying non-exam data to entrance decisions. While rolling exams continued at a similar yearly pace, annual g7 exams have fallen to about half of the 2022-23 level. <p>入試科目は、従来の4科目から、社会と理科を廃止し国語・英語算数の3科目に変更した。面接試験は合格者を決める際の筆記試験以外のデータとして有用であるとの意見が主任会の大多数を占めたため、残すこととなった。ローリング入試は例年と同じようなペースで実施したが、7年一般入試は昨年度の約半数まで減少した。</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Collaborate upon and develop MYP action Programme Development Plans based on an internal self-study of International Baccalaureate's Standards and Practices and the recommendations from the International Baccalaureate via the Evaluation Report paying special attention to the social and emotional needs of our students. (0301-02) <p>評価訪問に向け行なった、IBの原則から実践への内部自己評価に基づき作成したMYPのプログラム開発計画、および国際バカロレア機構の評価訪問の際の推奨事項における特に児童・生徒への社会的・情緒的ニーズに応えられるよう協同する。(0301-02)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Continue and increase the sharing of information between the IB Division and especially the Primary Division's EP program, in order to better serve all shareholders involved in the transition from EP to IB. Consider setting up a regular meeting where leaders and teachers of both Divisions can meet to exchange information and recommendations. (0301-06) <p>EPクラスからIBクラスへの移行に関わる児童、保護者、教職員などの関係者のために、IB DivisionとPrimary Division(EPクラス)との情報共有を継続し、さらに拡張させる。両ディビジョンの管理職や教員たちが集まり、情報や提案を共有できる定期的な会議の設置を検討する。(0301-06)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Increase the relationship with Tamagawa University Graduate School of Education through Action Research based on teachers' professional development needs. (0301-05) <p>教員研修のニーズに基づいたアクションリサーチを通じて、玉川大学大学院との関係をより一層深める。(0301-05)</p>
	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 語彙力や読解力の向上を目指した読書活動の推進計画については、各ディビジョンとMMRCの連携・協働のもと、推奨図書の設定とデジタル媒体の有効活用について検討する。(0301-01) ● SHを受講する園児・児童・生徒の特性を調べ、個別最適な学びの環境と自学自律を目指した学習姿勢の育成についてその関係性を分析し、運営体制の見直しを図る。(0301-05) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 読書推進の活動計画を進めた結果、推奨図書集「夢への扉」の構成方針を立案し各ディビジョン教務主任と検討を開始した。また、電子図書館については、利用状況をまとめ現状把握のみに留まった。(0301-01) ● SH受講生によるラーニング・コモンズ利用状況を調べた結果、ラーニング・コモンズ内の3つの学習エリアが効率的に活用されており、次年度整備計画の立案に役立った。(0301-05) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電子図書館の導入から3年が経過した。導入目的がコロナ禍の影響から読書環境の維持と読書量の少ない生徒に向けた対応であったが、利用状況の把握と分析で今後の利用方針を検討する。(0301-01) ● ESで実施しているSHと講座はその全てが全人教育の理念に反映し、利用した全ての園児・児童・生徒が最大の可能性を発揮できる場として計画し実施する。そのためESスタッフ、SH教員、委託業者、派遣講師等で定期的な話し合いを行う。(0301-06)
	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12受入プログラムとして、各教科、特別活動、日本文化体験等の国際教育活動を調査し検討をする。(0301-04) ● オンラインでの国際交流について検討し、カリキュラムの構築を行う。(0301-04) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 受入プログラムとして、幼稚部・Primaryの授業参観および授業体験での交流は、相互に取ってメリットのある国際教育活動として実施する事ができた。(0301-01) ● Secondaryでの海外生徒が各授業に参加する時間枠を増やす事ができたことは、多様な交流機会と学びの経験の幅と深さを広げる国際教育活動ができた。(0301-01) ● 学内での日本文化体験プログラムは、K-12・大学教員および学外講師の協力から充実した内容を展開し好評を得る事ができた。(0301-01) ● K-12国際教育課としてオンラインでの国際教育及び交流についてはカリキュラム構築まで進める事ができなかった。(0301-04) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12受入プログラムとして、各ディビジョンの協力により授業参観および授業体験の時間枠確保から、学びと体験を深める多様な国際教育活動の計画を継続的に進める。(0301-01) ● 学内での日本文化体験プログラム運用に向け、K-12・大学・学外の教員・講師との調整と依頼を年間通して随時行う。(0301-01) ● K-12オンラインとして各教科、特別活動で国際教育を行っている活動を調査し、学齢に応じたカリキュラムを模索する。(0301-04)
	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 来年度も引き続き、BYODを活用する教材の検討を各教科行う。さらに、それぞれの教科の実践例を共有する。(0301-01) ● 各教科、全人教育の理念を反映するカリキュラムの確認と再構築を行う。(0301-06) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各教科、BYODを活用する教材の検討を実施し、フォルダなどで共有した。(0301-01) ● 各教科、全人教育の理念を反映するカリキュラムの確認、検討ができた。(0301-06) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ICTの活用授業など、将来必要な資質能力を身に付けさせるためのカリキュラムや評価の方法などについて検討を行う。(0301-06)
	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、withコロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育を検討する。入学、卒業関連行事をK-12の連携を通して見直しを行う。(0301-02) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、withコロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育を児童・生徒の発達に応じた形で見直しを図った。(0301-02) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、withコロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育、特に、宿泊行事を児童・生徒の発達に即した形で実施できるように検討を重ねる。(0301-02)

文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures	【生活委員長】 ●各ディビジョンの中で各種規程の確認をし、新しい生活様式を鑑みながら学齢に応じた服装規程の検討を進める。(0301-02) ●クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針の検討を進め、クラブ体制を再構築する。(0301-01)	【生活委員長】 ●生活主任会を軸に、各種服装規程の確認を行い、新しい生活様式に則した内容に改定を進め、「生活の手引き」の記載内容に修正を加えた。(0301-02) ●クラブ活動の在り方に関して、加入状況と活動状況、顧問・外来コーチ等の指導体制を照合し、今後のクラブ体制の再構築に向けて、生活主任会を軸に検討を進めた。(0301-01)	【生活委員長】 ●各ディビジョンの中で各種規程の確認をし、社会情勢等を鑑みながら学齢に応じた服装規程の検討を継続的に進める。(0301-02) ●クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針の検討を進め、クラブ体制を再構築する。(0301-01)
	【管理運営部門 (教育情報・企画部)】 ●総合サイト、K-12 サイトトップ、K-12 配下ページのリニューアルにより、「本学の理念・方針に基づいた教育実践の展開」については、Web 訪問者への理解を促進することができた。今後は、ニュースや教育レポートなどの教育実践の Web 掲載に合わせて、K-12 パンフレットとも連動させQR コードから該当ページへ遷移するなど、運用面でも工夫を図り、Web 訪問者への理解を深めていきたいと考えている。(0301-06)	【管理運営部門 (教育情報・企画部)】 ●K-12 サイトにおける「本学の理念・方針に基づいた教育実践の展開」について「今日の玉川」「ニュース&イベント」「教育活動レポート」等のコンテンツの充実により、理念や方針との関連性を示した具体的な教育活動について、よりタイムリーで実践的な内容の理解促進ができた。 ●K-12 パンフレットのQR コードを利用したサイトへの誘導も実現し、パンフレットの誌面では表現しきれない内容を掲載し、訪問者の理解を深めることができた。(0301-06)	【管理運営部門 (教育情報・企画部)】 ●リニューアルした総合サイト、K-12 サイトトップ、K-12 配下ページの安定稼働とコンテンツの充実に注力する。さらに深い理解や関連した他の項目にも関心を寄せてもらう様に適切な掲載タイミング、掲載場所、内容、レイアウト、変遷先を考慮し更新する。(0301-06) ●K-12 パンフレットへのQR コード掲載にも的確な誘導先やパンフレット誌面との連動性をさらに高める。(0301-06)

評価規準	2023 年度の課題・重点施策	2023 年度自己評価	
		2023 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2024 年度の課題と改善方法 (2024 年度の課題・重点施策)
学習 (04) : 効果的な教育の保証 Learning (04) : Ensuring effective education 規準(0401) : 一貫したカリキュラムのデザイン Standard(0401) : Designing a coherent curriculum 0401-01 学校は、プログラムが実施される全学年にわたり、学習と指導を体系化する一貫したカリキュラムを計画し、実施すること。 0401-02 教師は、協働して学校のプログラムをデザイン、計画、実施すること。 0401-03 学校は、学校コミュニティーを明確に参加させるような方法でカリキュラムを開発し、定期的に見直し、共有すること。【K-16 連携を意識】	【学園教学部長】 ● JP クラスから Secondary Program Division、EP クラスから IB Programs Division への連携を意識したより一貫性のある教科指導を行えるよう、各教科で検討を継続する。(0401-01) ● K-12 全教員が探究的な学習について学べる場を設定する。「学びの技」及び、各教科の中における探究学習を意識した授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。(0402-01,0403-02) ● K-12 教科部会に加え、EP-IB の教科指導者の連携を深め、K-12 全体の評価方針に基づいた各教科の評価のあり方を継続検討していく。(0404-02)	【学園教学部長】 ●K-12 教科部会を設定して検討を進めている。5 年生から 6 年生への繋がり部分について焦点を当てて今後検討を進めていく必要がある。(0401-01) ●教務委員会が中心となり K-12 学内研修で授業研究を実施。またアカデミックサポートセンターと思考力育成委員会が中心となり、探究学習研究会を実施した。(0402-01,0403-02) ●教務主任が中心となり、プログラムの連携部分について検討が進められ、充実した教育活動を行うことができた。(0404-02)	【学園教学部長】 ●K-16 連携プログラム、企業等との連携プログラムを積極的に開拓し、各ディビジョンでの実施に向けてサポート体制を強化する。(0401-03) ●STEAM 教育、探究型学習の充実を図る。Edtech の推進、探究型学習 (自由研究) の充実、プログラミング学習の体系化に向けて、各ディビジョンのサポートを行う。(0401-01,02,03,04) ●K-12 全体の評価方針を継続検討する。IB の評価方法を参考にしながら、玉川学園の園児・児童・生徒のよりよい成長に繋がる評価方法を探る。(0404-01,02,03,04)
	【担当部長 (幼稚部担当)】 ●小学校への接続を意識して設定した年長後期「チャレンジプログラム」を含め、幼稚部 3 年間の「学びのプログラム」の体系化を図る。(0401-01,0402-06) ●MMRC、スターレックドームとの連携活動を継続するとともに、MMRC 図書利用について保護者に対し啓蒙する。(0401-02,03) ●個々の好奇心や興味関心が持続するよう、遊び・学びのポートフォリオを作成し教室等に掲示する。(0403-01) ●個々の成長を捉え、促進するためのポートフォリオ作成に関して、教員研修を計画する。(0404-02) *2022 年度は新型コロナウイルスの影響により中止	【担当部長 (幼稚部担当)】 ●年長後期の接続プログラム「チャレンジプログラム」に TAP (Tamagawa Adventure Program) 活動 (4 回)、ムーブメント活動「Global Workshop」(3 回)を取り入れ、非認知的能力、表現力の向上を試みた。(0401-01,0402-06) ●1 学期にスターレックドーム利用「プラネタリウム親子鑑賞会」、3 学期には MMRC との連携活動「ぬいぐるみおとまりかい」を実施した。(0401-02,03) ●1 学期末にポートフォリオに関する教員研修を実施した。また、教室に遊びのポートフォリオを掲示するなどして、個々の興味関心を促進するための取り組みを行なった。(0404-02)	【担当部長 (幼稚部担当)】 ●小学校への接続を意識して設定した年長後期「チャレンジプログラム」の更新、幼稚部 3 ヶ年の「学びのプログラム」の体系化を図る。さらに、個性や主体性を伸ばす「自発的な遊びの時間」の環境設定について、各学年で計画や振り返りを行う。(0401-01,0402-06) ●保護者が一緒に関わる活動として、MMRC、スターレックドームとの連携活動を継続する。(0401-02,03) ●個々の成長を捉え促進するためのポートフォリオ作成に関して、教員研修を継続する。(0404-02)
	【教育部長 (K-5 担当)】 ●K-12 の連携の中で、5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの構築を目指し、継続的に取り組む。また、継続的に JP クラスの英語力の到達度を測定することによって、カリキュラム改善を図る。(0401-01) ●児童の英語力を測定する新たなテストのあり方を検討し、英語カリキュラムの改善に繋げる。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、日々の学習活動に取り組ませる。(0402-02) ●3~5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築し、プログラミング的思考力の育成、探究的な学習の推進を図ることを継続していく。(0403-02) ●オンライン参加が続く児童の成績評価に関しては教科毎で検討を継続しブラッシュアップを図っていく。(0404-01,03)	【教育部長 (K-5 担当)】 ●K-12 の連携の中で、EP クラスのカリキュラムも参考にし、5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの見直しを図ることができた。(0401-01) ●今年度は Pearson Primary Benchmark テストを用いて英語力の測定を JP クラス 5 年生、EP クラス 1~5 年生で実施した。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、具体的な目標を立てて取り組んだ。(0402-02) ●3~5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築し、プログラミング的思考力育成目的のキューベットの活動 (1・2 年生の全クラス対象) を計画通り実施することができた。(0403-02) ●オンラインによる授業参加が継続化した児童はほとんど見られなかったが、今後も成績評価に関しては教科毎で検討を継続しブラッシュアップを図っていく。(0404-01,03)	【教育部長 (K-5 担当)】 ●K-12 の連携の中で、BLES 英語カリキュラムの見直しとともに 5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの構築を目指し、継続的に英語力の向上に取り組む。(0401-01) ●新しく用いた、Pearson Primary Benchmark テストの結果を検証し、英語力の向上に繋がられるようにする。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、教職員及び児童が常に意識し、日々の学習活動に取り組むようにする。(0402-02) ●3~5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムに統計の要素を盛り込み、フィールドワークを実施し、プログラミング的思考力の育成、探究的な学習の推進を図ることを継続していく。(0403-02) ●オンライン参加が続く児童の成績評価に関しては教科毎で検討を継続することでブラッシュアップを図っていく。(0404-01,03)

<p>規準(0402)：生涯学習者としての生徒 Standard(0402)：Students as lifelong learners</p> <p>0402-01 生徒は、活発に思考、研究し、コミュニケーションをとり、社会的、および自己管理のスキルを発達させること。</p> <p>0402-02 生徒は、「教育の12信条」「IBの学習者像」の人物像に沿った継続的な発展を実証し、振り返りを行うこと。</p> <p>0402-03 生徒は、健全な人間関係、責任の共有および効果的に協働することの大切さについて理解し、発展させること。</p> <p>0402-04 生徒は、情報、論理、および倫理に基づいて判断を行う能力を向上させること。</p> <p>0402-05 生徒は、より広いコミュニティーと社会全般に肯定的な変化をもたらすのに必要な柔軟性、忍耐力、および自信を育むこと。</p> <p>0402-06 生徒は、チャレンジに満ちた目標を設定し、独自の探究を突き詰めることで、自身の学習に責任をもって取り組むこと。</p> <p>0402-07 生徒は、個人的な、また文化的なアイデンティティを模索し、発展させる機会を追求すること。</p>	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャリア教育において、各教科の教育実施を共有し、つながりのあるカリキュラムを模索する。(0401-01) ● ICT 活用の実践を共有し、各教科に適した活用方法を検討する。(0401-01,02) ● SDGs や起業教育カリキュラムについての検討を行う。(0401-01,05,06) ● 自由研究において、生徒がさらに主体的に活動できるよう「SSH」の探究方法を参考に検討する。(0403-01,03) ● 高等学校学習指導要領に基づいた教育課程における評価のあり方について引き続き検討する。(0404-02) <p>【教育部長（IB 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Further changes to the weekly meeting schedule will be examined each winter in anticipation of the master timetables publication in April. Meetings will be added/subtracted/changed in frequency upon recommendation of the senior leadership team in communication with other shareholders.(0404-03) <p>基本時間割は、4月の確定に向けて毎年冬に変更を検討する。教員の意見を集約しながら、管理職の推奨・提案により、ミーティングの追加、縮小、頻度の変更を行ない、実情に合わせ、年度中も変更を行なう。(0404-03)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The curriculum of this class will continue to be refined in collaboration with the Director of Teaching and Learning, the Lead Teacher for Student Affairs and the MYP Coordinator.(0402-01) <p>IB Core のカリキュラムは、教務主任 (Director for Teaching and Learning)、生活主任、MYP コーディネーターと協力しながら、引き続き改良を進めていく。(0402-01)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Continue to disperse reihai duties in an equitable way among teachers.(0402-04) <p>引き続き、教員間で公平に礼拝担当を分担し、よりよい礼拝運営を目指す。(0402-04)</p>	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャリア教育において、学年のつながりについては検討を行った。教科に関しては十分とはいえなかった。(0401-01) ● ICT 活用の実践を共有し、各教科に適した活用方法について検討した。(0401-01,02) ● SDGs や起業教育カリキュラムについて検討できた。(0401-01,05,06) ● 自由研究において、生徒がさらに主体的に活動できるよう「SSH」の探究方法を参考に検討を行った。(0403-01,03) ● 高等学校学習指導要領に基づいた教育課程における評価のあり方について検討できた。(0404-02) <p>【教育部長（IB 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The weekly and monthly meeting schedule has been effective this year, requiring no alteration of the overall timetable. No calls have risen to either eliminate or increase the number/frequency of meetings across teachers, junior or senior leadership members. <p>週ごと、月ごとのミーティング・スケジュールは効果的であり、全体的な枠組みを変更する必要はなかった。教員、ジュニア・シニア管理職のいずれにおいても、ミーティングの回数や頻度の増減についての声は上がっていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IB Core continues to be planned and taught by the Director of Teaching and Learning and the Lead Teacher for Student Affairs. Curriculum development continues according to current events and school needs. Academic integrity concerns have shaped some of the current changes, with the advent of AI and other modern innovations. <p>IB Core の授業は、引き続き教務主任 (Director for Teaching and Learning)、生活主任によって計画・実施している。また、カリキュラムの変更は、時事問題や児童・生徒の学びの必要性に応じて続けている。アカデミック・インテグリティ (学問的誠実性) に挙げられる問題は AI やその他の現代的な技術革新の出現により、問題の形も変わってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Reihai duties continued to be organized in a fair and equitable way among teachers and leaders. An annual schedule is provided to teachers at the beginning of each year for planning purposes. <p>礼拝の講話担当は引き続き教員および主任間で公平かつ公正な方法で分担している。年間のスケジュールは、年度初めに示し、担当する教員に十分な準備期間を設けている。</p>	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校の情報に繋がるカリキュラムについてプログラミング思考や情報スキル、情報リテラシーなど考慮して構築する。(0401-01) ● 町田市との地域貢献や地域連携の活動を模索する。(0402-01,05) ● 自由研究の更なる活性化の方法を模索する。(0403-01,03) ● 2024 年度は高等学校学習指導要領の完成年度であるので、学習意欲の向上や資質・能力の育成につながる評価のあり方について引き続き検討する。(0404-02) <p>【教育部長（IB 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Investigate ways to ensure that the IBDP Programme timetable can fit into a seven period school day with the aim of implementing it from April 2025.(0401-01,02) <p>IBDP のプログラムを1日7時間授業の中で実施する時間割設定の方法を検討し、2025年4月の導入を目指す。(0401-01,02)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Train staff through collaborative workshops to ensure there is a programme-wide understanding of the International Baccalaureate's Approaches to Teaching, paying close attention to inquiry based learning.(0403-01) <p>コラボレーションの伴うワークショップを通じて、特に探究型学習に着目し、IB における教え方へのアプローチのより深い理解を行なう。(0403-01)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To modify our MYP assessment procedures to both ensure the demands of the programme are met and that students and staff can uphold a sustainable work-life balance.(0404-02,03) <p>MYP のアセスメント (評価課題) の実施方法を変更し、プログラムの要求を満たしつつ、児童・生徒と教員が持続可能なワークライフバランスを維持できるようにする。(0404-02,03)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To embed the new EAL Teaching Assistant role across the Division to ensure extra support inside and outside of the classroom for our EAL learners in most need of extra assistance.(0403-05) <p>特別な支援を最も必要とする EAL 学習者のために、教室内外での特別なサポートを確保するため、EAL ティーチングアシスタントの役割をディビジョン全体に定着させる。(0403-05)</p>
<p>規準(0403)：指導のアプローチ Standard(0403)：Approaches to teaching</p> <p>0403-01 教師は、生徒の自然な好奇心を培うために、探究・行動・振り返りを用いること。</p> <p>0403-02 教師は、生徒の思考力を高めるために概念理解の学習に重点を置くこと。</p> <p>0403-03 教師は、カリキュラムの関連性 (教科横断、学年縦断) をもたせるために、地域およびグローバルな文脈を用いること。</p> <p>0403-04 教師は、肯定感があり、躍動感のある学習環境を創造するために、効果的な人間関係の構築と意義のある協働を促進すること。</p> <p>0403-05 教師は、生徒一人ひとりがやりがいのある独自の学習目標を立て、それを追求し達成できるように学習への障壁を取り除くこと。</p>	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普通の教育活動では時間的・物理的な制限から実施出来ない発展的で魅力的な学習内容がある。その内容の中から ES の新規講座として取り扱う可能性を検討する。(0401-02) ● 探究学習における統計的思考力の育成方法について、ICT を十分に活用し学齢に応じた指導方法を検討する。(0403-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ES では現状の事業内容を見直し、SH で新規プログラム、講座は新規講座を開発し次年度より開講する。(0401-02) ● 4・5年生対象の「学びの技」では、統計的思考力の育成を目指した特別授業を計画し実施した。なお、ICT を十分に活用した授業を展開するまでには至らなかった。(0403-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2024 年度に完成年度を迎える 6～12 年生対象の SH では、児童・生徒個々にとって更に効率的で最適な学びの環境を提供する。学習データの利活用を積極的に進めるための環境について、関係部署や委員会等で検討を開始する。(0401-02) ● 各ディビジョンで実施している探究活動については、MMRC が K-12 として系統立てて作られた思考力育成の活動となるよう支援体制とカリキュラムを検討する。(0403-02)

<p>規準(0404)：評価方法 Standard(0404)：Approaches to assessment</p> <p>0404-01 生徒と教師は、学習、指導、および評価を向上させるためにフィードバックを行うこと。</p> <p>0404-02 学校は、カリキュラムおよび規定された学習結果と目標に見合うさまざまな評価方法を用いること。</p> <p>0404-03 学校は、公正でインクルーシブに、かつ一貫性と透明性をもって評価を実施すること。</p> <p>0404-04 生徒は、学習したことを定着させる機会として評価を利用すること。</p>	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際教育センターとして K-16 の一貫性のある国際教育プログラムを検討する。(0401-01) ●大学・K-12 共に国際担当との連携を深め、計画内容の確認をする。 ●研修・留学派遣先の学校を増やす。(0401-02) ●学内で展開できる国際交流プログラムの検討をする。(0401-02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際教育センターとして K-16 の一貫性のある国際教育プログラムの検討から、国際教育センターとして情報共有を深めた。(0401-01) ●英語圏での交換研修校 (RS 校) の新規開発を進める事ができ、次年度より運用ができる。(0401-02) ●K-12 学内で教育展開できる国際交流を K-12 国際教育課と RS 委員会で継続的に進める事ができた。(0401-02) ●K-16 海外留学プログラムの効果測定 (BEVI) を実施した。(0401-01) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際教育センターとして K-16 の一貫性のある国際教育プログラムの検討を継続的に行う。(0401-01) ●大学・K-12 の国際担当と連携を深め、各学部・各ディビジョンでの国際教育プログラム計画を確認し、事前準備等のサポート体制を整える。(0401-04) ●受入時のホストファミリー及び学内ホストを確保する方策と体制を継続検討する。(040-05) ●BEVI (海外留学プログラム効果測定) を継続実施する。(0401-01)
	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2022 年度から段階的に実施されている高等学校学習指導要領に基づいた一貫カリキュラムについて引き続き検討する。(0401-01) ●各教科や自由研究など、横断的で、思考力や知的好奇心を高めるカリキュラムを検討する。(0403-01,02,03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2022 年度から段階的に実施されている高等学校学習指導要領に基づいた一貫カリキュラムについての検討を行った。(0401-01) ●各教科や自由研究など、横断的で、思考力や知的好奇心を高めるカリキュラムについて検討した。(0403-01,02,03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2024 年度は段階的に実施されている高等学校学習指導要領が完成年であるので、K-12 一貫カリキュラムについて再確認を行う。(0401-01) ●各教科や自由研究などにおいて、横断的で、思考力や知的好奇心を育むカリキュラムになっているか検討を行う。(0403-01,02,03)
	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「心の教育」として礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、礼拝では学齢に応じた運用と形態の継続検討を進める。(0401-01) ●ICT を活用した教育活動での教材を増やしていく。(0401-03) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「心の教育」では、礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップを、年間計画に則して設定し、学齢に応じた対応を進めた。(0401-01) ●BYOD の導入が 11 年生まで完了し、各教科目で積極的に ICT 教材を取り入れた授業が展開できた。学内研修会においても、研究授業のテーマに掲げ研修を実施した。(0401-03) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「心の教育」として礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、学齢に応じた運用と形態の継続検討を進める。(0401-01) ●ICT を活用した教育活動での教材を積極的に取り入れ、充実していく。(0401-03)